

静岡県伊豆半島東岸（相模湾）からの成魚標本に基づく タテジマキンチャクダイの記録

中西 健¹・中谷洗稀¹

Author & Article Info

¹ 下田海中水族館（下田市）

TN: nakanishi@shimoda-aquarium.com (corresponding author)

KN: nakatani@shimoda-aquarium.com

Received 02 February 2026

Revised 04 February 2026

Accepted 05 February 2026

Published 06 February 2026

DOI 10.34583/ichthy.64.0_17

Takeru Nakanishi and Koki Nakatani. 2026. Adult specimen-based record of *Pomacanthus imperator* from Izu Peninsula (Sagami Bay), Shizuoka Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 64: 17–19.

Abstract

A single adult specimen (250.7 mm standard length) of *Pomacanthus imperator* (Bloch, 1787) (Pomacanthidae), collected off Kawana, Ito, Shizuoka Prefecture, on the east coast of the Izu Peninsula, represents the first record of the species based on an adult specimen from Sagami Bay, although juveniles have been frequently observed in this region.

キンチャクダイ科のタテジマキンチャクダイ *Pomacanthus imperator* (Bloch, 1787) は、日本においては青森県以南の太平洋沿岸を中心に分布する（島田, 2013; 石黒・三澤, 2024）。本種は、静岡県沿岸ならびに相模湾からも多数の記録があるが（伊藤, 2003; 瓜生, 2003; Koeda et al., 2022）、そのほとんどは幼魚に基づく記録である〔例えば、工藤ほか（2022）〕。

2025年10月に静岡県伊東市川奈沿岸（伊豆半島東岸）に設置された定置網で、1個体のタテジマキンチャクダイの成魚が漁獲された。この個体は、下田海中水族館に搬入され、飼育が試みられたが、2025年12月12日に死亡し、同館で標本として保存されている。伊豆半島沿岸では、ダイバーにより本種の成魚の写真が記録されてはいるものの、成魚の標本に基づく分布記録は、この海域から初めてとなると考えられるため報告する。

材料と方法

計数・計測方法は三澤・石黒（2024）にしたがった。

計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行った。生鮮時の体色は固定前に撮影された標本のカラー写真に基づく。標本の作製、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。本報告に用いた標本は、下田海中水族館の標本資料（SFA）として保管されている。相模灘の定義は、Senou et al. (2006) にしたがった。

Pomacanthus imperator (Bloch, 1787)

タテジマキンチャクダイ

(Fig. 1)

標本 SFA-7, 標準体長 250.7 mm, 静岡県伊東市川奈沖・相模湾（34°57'24"N, 139°08'28"E）、小型定置網、水深 27 m, 2025 年 10 月 29 日, 杉本博輝。

記載 鰭条数：背鰭 XIII, 19; 臀鰭 III, 19; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5. 鰓耙数 5 + 13. 鰓条骨数 4. 標準体長に対する各部位の割合（%）：全長 120.2; 最大体高 62.9; 体幅 20.5; 頭長 27.4; 吻長 11.0; 眼径 7.0; 両眼間隔幅 10.0; 尾柄高 12.7; 尾柄長 5.0; 最長鰓耙長 1.0; 前鰓蓋骨棘長 11.6; 尾鰭長 19.0; 胸鰭長 23.5; 第 1 背鰭棘長 4.3; 第 2 背鰭棘長 7.6; 第 3 背鰭棘長 8.7; 最長背鰭軟条長 26.0; 第 1 臀鰭棘長 5.8; 第 2 臀鰭棘長 11.2; 第 3 臀鰭棘長 11.2; 最長臀鰭軟条長 16.5; 腹鰭棘長 16.4; 腹鰭長 27.7.

体は楕円形で著しく側扁する。体高は肛門付近で最大となり、頭長の 2.3 倍。頭部背縁は鼻孔付近と眼の上方でわずかに凹む。尾柄部は太く短い。眼は楕円形。口は端位で小さい。前鼻孔は円形、後鼻孔は上下に長い楕円形。下顎は上顎よりも前方に突出する。両顎には薄い板状歯が密生する。前鰓蓋骨の下部に長く強い 1 棘がある。胸鰭はやや尖り、その先端は背鰭第 5 棘基部の直下に達する。腹鰭の第 1 軟条は糸状に伸長する。背鰭の第 5–8 軟条は糸状に伸長する。臀鰭の軟条部の外縁は円形で、第 3 棘が最長。尾鰭の後縁はわずかに丸い。頭部と体は櫛鱗で被われる。前鰓蓋骨棘は無鱗。側線は尾柄部まで達する。

生鮮時の色彩 体と背鰭の大部分に黄色と青色の細い

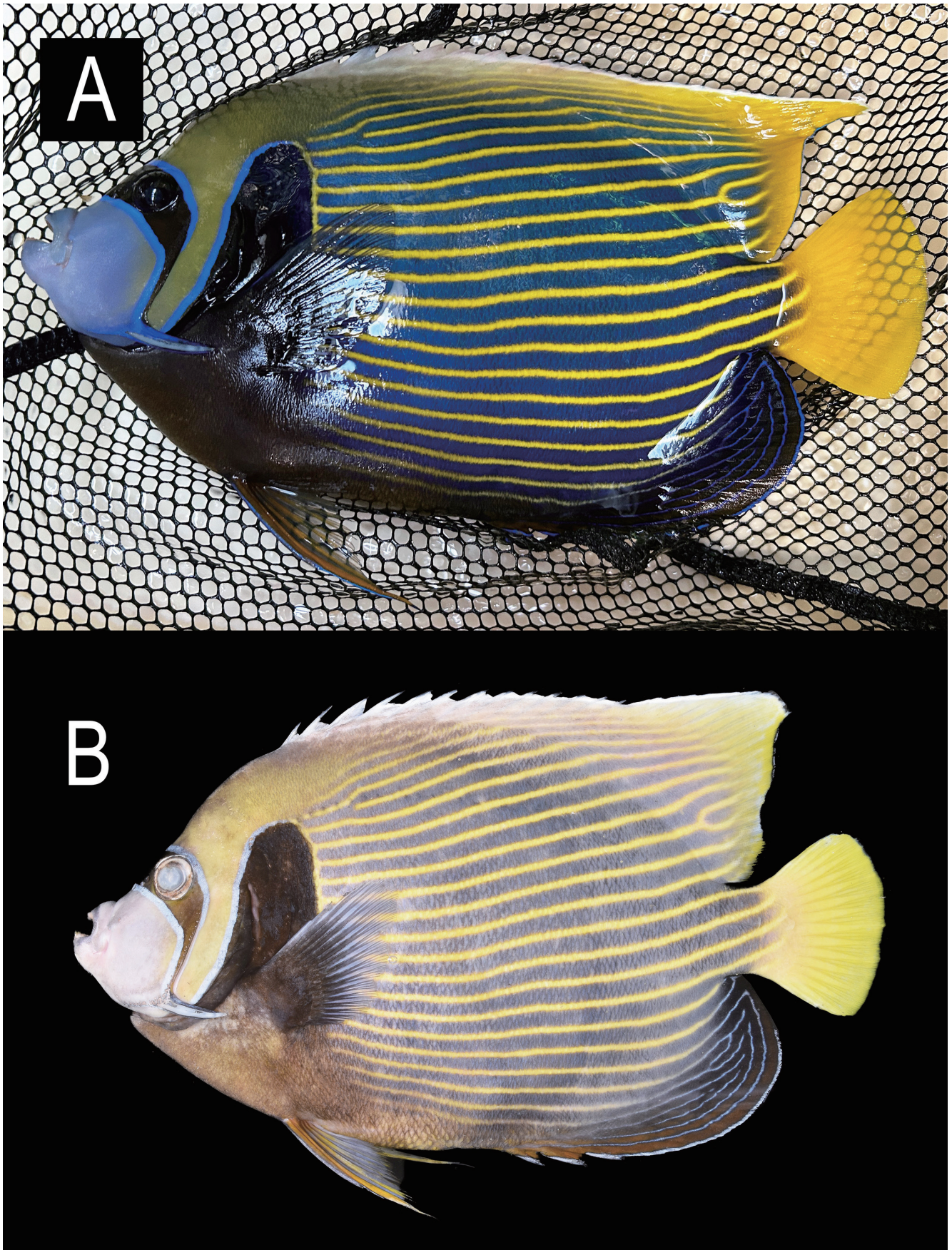


Fig. 1. *Pomacanthus imperator* (SFA-7, 250.7 mm standard length) from east coast of Izu Peninsula (Sagami Bay), Shizuoka Prefecture, Japan, in live (A) and freshly defrosted (B) conditions. B: specimen kept in aquarium for about 1 month.

帯があり、それらは体軸に対して斜走縦する。黄色帯は青色帯より細い。胸鰭基底の上方に黒色域があり、その前縁は青白色で縁取られる。腹部は黒茶色。頭部は緑がかった

灰色で、眼を通る青白色で縁取られた暗色帯がある。吻は淡い灰色。胸鰭は暗い灰色から黒色。腹鰭は軟条が橙色で鰭膜は青白色。臀鰭は全体が茶褐色から赤褐色で、青色帯

があり、縁辺は青白色で縁取られる。尾鰭は全体が黄色で後縁は白色。

分布 本種は紅海を含むインド・太平洋に分布し (Heemstra, 2022), 日本国内では伊豆諸島, 小笠原諸島, 火山列島, 青森県三沢および茨城県鹿島灘から九州南岸にかけての太平洋沿岸, 琉球列島, 南大東島および尖閣諸島から報告されている (望月ほか, 1994; 島田, 2013; 岩坪, 2014; 瀬能, 2018; 本田ほか, 2024; 石黒・三澤, 2024)。

備考 記載標本は, 体が楕円形で著しく側扁する, 背鰭鰭条数が XIII, 19, 臀鰭鰭条数が III, 19, 臀鰭軟条部の外縁が円形を呈する, 側線が尾柄部まで達する, 体側に多数の黄色と青色の縦帯があるなどの特徴をもち, 島田 (2013) と Heemstra (2022) にしたがって, タテジマキンチャクダイ *P. imperator* に同定された。

Obota et al. (2016) は, 本種の性成熟サイズを雄では全長 250 mm, 雌では 280 mm と報告した。記載標本 (全長 301.2 mm) は, 既報の体サイズを超えており, 発達した乳白色の精巣を有していたことから, 性成熟に達した成魚と判断された。前述の通り, 静岡県沿岸ならびに相模湾では通年, タテジマキンチャクダイの幼魚が観察・記録されているが, 成魚の分布記録は写真資料に限られていた (神奈川県立生命の星・地球博物館・魚類写真資料: KPM-NR 61154, 61155, 70177)。

謝 辞

本研究を行うにあたり, いとう漁業協同組合および川奈定置網漁の関係者各位には, 標本の採集および収容にご尽力いただいた。下田海中水族館の魚類スタッフの皆さまには, 生体の輸送や飼育にご協力いただいた。同館飼育課長の都築信隆氏には, 本研究を取りまとめるにあたり多大なる便宜を図っていただいた。また匿名の査読者には, 査読を通じて有益な助言をいただいた。以上の方々に深く感謝の意を表する。

引用文献

- Heemstra, P. C. 2022. Pomacanthidae, pp. 431–442. In Heemstra, P. C., E. Heemstra, D. A. Ebert, W. Holleman and J. E. Randall (eds.) Coastal fishes of the western Indian Ocean. Vol. 3. South African Institute for Aquatic Biodiversity, Makhanda.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 53: 127–218.
- 石黒智大・三澤 遼. 2024. 青森県三沢沿岸から得られた北限記録のタテジマキンチャクダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 42: 34–37.
- 伊藤勝敏. 2003. 伊豆の海・海中大図鑑. データハウス出版, 東京. 377 pp.
- 岩坪洗樹. 2014. タテジマキンチャクダイ, p. 307. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- Koeda, K., M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2022. Report on the specimens of family Pomacanthidae (Teleostei: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, 129: 87–100.
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. 神奈川自然誌資料, 43: 97–142.
- 望月利彦・二平 章・山口安男・田村泰洋・大川 徹. 1994. 茨城県沿岸海域で分布が確認された新魚種. 茨城県水産試験場報告, 36: 39–51.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Obota, C. O., B. M. Fulanda, G. M. Okemwa and E. N. Kimani. 2016. Reproductive biology and body condition of exploited populations of Emperor Angelfish, *Pomacanthus imperator* (Bloch, 1787) along the Kenyan coast. WIO Journal of Marine Science, 15: 19–30.
- 瀬能 宏. 2018. キンチャクダイ科, pp. 306–307. 中坊徹次 (編) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- Senou, H., K. Matsuura and G. Shinohara. 2006. Checklist of fishes in Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the Influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389–542.
- 島田和彦. 2013. キンチャクダイ科, pp. 1005–1015, 2025–2029. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瓜生知史. 2003. 生態観察ガイド 伊豆の海水魚. 海游舎, 東京. 253 pp.